

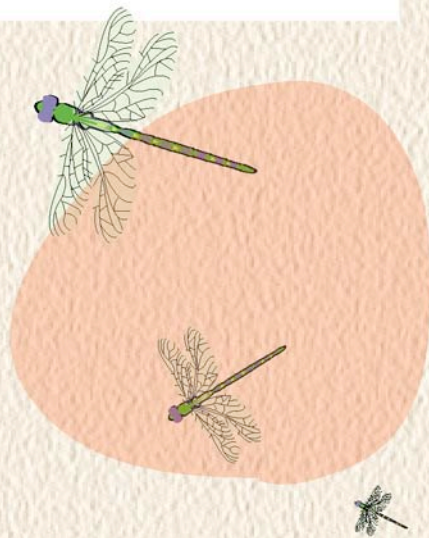


Southern Cross

くるす  
なびざん

vol.18

KINAN HOSPITAL  
OFFICIAL INFORMATION PAPER  
September 1.2011



## 作業療法について

リハビリテーション科  
作業療法士 原崎 智子

四月より紀南病院リハビリテーション科にて、新しく作業療法を開始しています。

現在当科では、運動器、呼吸器、脳、心臓、小児疾患等の患者様に対し、理学療法、作業療法、言語聴覚療法を通じて総合的にリハビリテーションを行える体制を整えました。

作業療法と言われてもピンと来ない人が多いのではないのでしょうか。

作業療法とは身体又は、精神に障害がある人、又はそれが予測される人達が、その人らしより良い生活が出来るよう、様々な作業活動を通して、諸機能の回復、維持を促す治療、練習、指導及び援助を行う方法です。

また、機能の回復だけでなく、残されている機能で能力の向上を目指し、『できない』ことよりも『できる』ことを増やして生活の質の向上を目指すことが、作業療法の特徴です。

作業療法では、子供から高齢者まで老若男女問わず、生活に支障を持つすべての人に関わります。

私は現在、脳血管疾患、骨折、腱板損傷、頸椎症、肩関節周囲炎等、主に上肢の治療をさせていただいています。具体的な内容としましては、サンディングや輪投げ等の道具を用いて、上肢の関節可動域の改善、筋力強化などの上肢の機能回復練習、移動・食事・入浴等の日常生活活動に関わるADL練習等を行っています。

今後上記で行っている治療以外にも、例えば『料理がしたいけど、片手ではし難い。』という方に対して、調理の練習をしたり、字が書けない人に書字練習をしたりと作業活動を通して、作業療法士ならではのリハビリテーションを提供できればと思います。



手指の筋力を強化しているところです

最後に私は、住み慣れた所で人は生活することが一番大切であると思います。そのためには、廃用性症候群の予防及び機能改善のため、疾病や障害が発生した当初よりリハビリテーションサービスが提供されることはもちろんのこと、退院後のケアも重要であると思います。入院だけでなく、退院後地域で生活している患者様に、少しでも作業療法というリハビリテーションが提供できればと思います。

うまく皆さんに伝えられたかどうか分かりませんが、作業療法の紹介をさせていただきました。作業療法を通し患者様のリハビリテーションに少しでも役に立てればと、より一層頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

## 岩手県山田町での医療救護班活動報告

6月5日から9日まで(活動期間は6月6から8日の3日間)、県の医療救護班の第27班として岩手県山田町に行ってきました。当院スタッフで構成された医師2人、薬剤師1人、看護師2人の5人編成のチームで、当院からは3月末に行ったチームに続いて2度目の派遣でした。

1度目の派遣チームはバスに医薬品などの荷物を積み込んで十数時間かけて移動し、雪道や寒さが大変だったようですが、私たちのチームは伊丹空港から飛行機(1時間半)で岩手県花巻空港に到着し、空港でレンタカーを借りて3時間の峠道を越えて現地に入ることができました。最高気温は27°Cまで上がり、暑いぐらいでした。私服姿での移動で、荷物も2、3日旅行する程度のものでした。(マスクや手術着や防護服を持参していきましたが、結局使用することはありませんでした。)活動内容は山田町の豊間根地区と大沢地区にある避難所等での巡回診療でした。



消化器科  
線崎 智孝



3月11日の震災の日から3カ月経過した現場の状況は、私たちが想像していたものとはだいぶ違っていました。出発前に、医療ニーズが急性期から慢性期の病気のケアに移ってきていることは聞いていましたが、実際のところは私たちの活動する機会はあまりなく、慢性期というよりも安定期に入ってきたという印象を受けました。

震災直後は失われた医療に対し医療救護班がその不足している部分の医療を提供するということが活動の内容でしたが、震災から3カ月後の医療活動は患者さんに対しては開業医やかかりつけ病院への受診をすすめ、地元の医療機関に対しては患者の引き継ぎを行っていき、自立を促していくことが県の方針でもありました。

一時は300人前後いた避難所の入所者も仮設住宅へ移動しつつあり、50人前後までに減ってきており、私たちが巡回した昼間には動きにしている人も多く、避難所にいたのは十数人でした。

薬の調節をしたり、近医に紹介をした患者さんは3日間で合計10人程度でした。急を要するような患者さんはいませんでした。

医療救護活動の初日は「何か役に立つ活動をしなれば!」とテンションが非常に上がり過ぎていたため、落ち着いている現地にひょうし抜けの感じと、少し申し訳ない感じもありましたが、震災3カ月目には何もなく落ち着いていることが普通で、救護班の活動が少ないことが望ましいということを知ってからは、心にゆとりを持って活動することができました。

現地では私たち以外にも他県の医療救護班、支援チーム、こころのケアチーム、理学療法士チームなど多くのチームが活動していました。それぞれ「〇〇県」「△△病院」という統一したユニホーム(ベスト)を着用していましたが、私たちは白衣や手術着しか持参していなかったため、前の救護班(第26班)の和歌山県医師会のユニホームを借りての活動となりました。

災害現場では、「どこの」「誰が」「どんな活動をしているか」を周りに分かってもらうことは重要なことで、もし新たに災害が起こった場合に救護活動に出遅れないためにも「和歌山県」「社会保険紀南病院」の文字が入ったユニホームを用意しておくことは必要だと感じました。

活動内容としては少なかつたかもしれませんが、3カ月経過した時期の被災地の現状を自分の目で見てくることができたのは大きな収穫だったと思います。被災された皆様には心からお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復旧と復興をお祈りいたします。



## 第10回紀南地区がん診療研修会について

社会保険紀南病院の、地域がん診療連携拠点病院としての事業の一環として、地域の先生方及び医療従事者の皆様を対象に、第10回紀南地区がん診療研修会を6月25日に開催しました。

今回は『耳鼻咽喉科のがん』をテーマに行いました。当院耳鼻咽喉科部長山内一真が「喉頭癌の診断と治療について」、当院耳鼻咽喉科医長安井紀代が「下咽頭癌の診断と治療について」それぞれ講演を行いました。がん全体としては比較的症例数の少ない頭頸部の癌についての話でしたので、活発な質疑応答があり、充実した研修会でした。



## 地域医療連携だより

私が龍神村の診療所に赴任して今年で15年になります。この間、旧田辺市との合併により市直営の診療所になり、龍神中央診療所と名称を変え今日に至っています。

龍神地区の人口は約4,500人、65歳以上の人口が約36%を占める高齢者地域です。診療所に通院される患者さんの疾病構造をみますと、脳血管障害、高血圧、心疾患、末梢血管障害等の循環器疾患が最も多く、次いで肺炎、糖尿病等代謝疾患、が多く見られます。意外と消化器疾患は少ない印象です。

しかし高齢者特有の変形性脊椎疾患、関節疾患等の運動器疾患を多数共有しています。一人でいくつもの疾患を有している患者さんが大変多いのが実状です。外来での訴えも多岐にわたり、また老化による難聴、理解度の低下、時には自己中心的で他人の意見を聞こうとしない性格が外来診療におけるコミュニケーションに支障をきたします。

地域の患者さんと個々にどう向き合えばいいのか、自問自答しながらの毎日です。幸いにも今まで、ある程度信頼を持って通院をいただいていることは有り難い事と思っています。



地域特有のニーズを患者さんの目線に立って考える必要性を感じますが、医療は患者さんにすべてを妥協するものではないとも思います。最善の医療を提供するという観点からは、時には患者さんに厳しい事も言わなければならない時もあります。高齢の患者さんへの対応の困難さ、高齢の患者さんに理解を得る難しさはなんとも言いようがありません。

私は内科医として対応していますが、患者さんの共有する他疾患の治療には限界があります。当然各科先生方をお願いする必要がありますが、紀南病院の地域医療連携室を通じて入院も含め対応していただいている事は有り難いことです。数居の高い病院もある中で無理なお願いにも快く受け入れをいただいております事は、地域の医療に携わる者として心強い限りです。

中央診療所は紀南病院の研修医の地域医療研修施設に指定され、数年前から研修医の先生方を受け入れています。地域医療を研修するといっても多岐にわたり1ヶ月間でどの程度の研修を積んでいただけるかはわかりません。私たちの提供するプログラムも不十分で今までの先生方には大変申し訳なく思っています。地域の患者さんの実態、現場医療の雰囲気少しでも感じていただけたら幸いです。研修医の先生方の消化能力に期待しています。

今日の複雑な医療環境の中で、地域と基幹病院との関係は益々重要になると思います。今後も地域医療基幹病院としての紀南病院に期待いたします。

## 学校だより

5月6日(金)は看護の日、(5月はナイチンゲールの誕生月)「東日本大震災～災害支援看護師の活動報告～」をテーマに、紀南病院5階東棟永井主任による講演を行いました。パワーポイントを用いた現場の写真や実際に持っていった荷物など、臨場感のあるお話に学生も災害看護の現場のイメージを一步深められたと思います。

学生の協調性を養い指導力を身につけることを目的として、6月11日(土)に、2学年の学生が中心となり、地域の高校生を対象に看護学生体験を行いました。29名の高校生が参加し、看護学生の白衣を着用して血圧測定の見学技術体験を行いました。今回の看護技術体験で看護の仕事を知っていただき、進路決定の参考にしていただけたらと思います。

6月7日(火)開催の地域合同避難訓練に1学年の学生が参加し、地震と津波を想定した避難訓練を行いました。

8月9日(火)、学校説明会を行いました。参加者は23名(高校生10名、保護者2名、社会人11名)で、新聞広告を見て来られた人が多く看護学校の教育内容や入試についての説明を熱心に聞いていただき、また、学校内見学にも全員参加していただきました。看護師になりたいと考えている方々に看護学校の事を知っていただくよい機会となりました。



# 病院のまど

## 第32回市民健康講座について

前立腺がんは、男性が罹るがんですが、日本において最近前立腺がんの患者数が急激に増加しています。

前立腺がんは特有な症状がほとんどなく、それが発見を遅らせています。しかし、早期発見・治療をすれば約90%の方が完治することの出来るがんです。この機会に、前立腺がんの早期発見と適切治療について一緒に学びませんか？

日時 平成23年9月4日(日)  
 時間 午後2:00~3:00  
 演題 前立腺がんのお話  
 ~早期発見、適切治療について~  
 演者 線崎 博哉 (紀南病院 泌尿器科医長)  
 会場 紀南病院 3階講堂

## 第31回市民健康講座について

今回、放射線の話ということで、当院放射線科医長覚野芳光が「放射線治療から放射線障害まで」の話をしました。福島原発事故以来、皆様の関心が高く放射線が人体に与える影響について多くの質問をいただきました。また、今回の資料は分かりやすいと好評で、家族や知人のために数部持ち帰りになる方も多くいらっしゃいました。



紀南病院の公式ロゴが出来ました。

「緑あふれる紀南の地で医療という名の光を注ぎたい」という思いで、デザインしました。今後は、病院のシンボルとして活用していきますので、よろしくお願いいたします。

## 編集後記

「節電生活」今日この頃、皆様いかがお過ごしですか。町工場では、6月から湯たんぼ、石油ストーブの生産がフル稼働中とか。まさか電力会社から節電要請(お願い)が来るような事が起こるとは思ってもいなかった。今までお金さえ払えば電気は使い放題だと思って暮らしてきた。と言うより、意識さえしなかった。そんな私がいたる所の電化製品のスイッチを入れる度、ふと節電を考えるようになった。しかし結局、まあええか、仕方ないわなあ、となるのだけれど。

今回の東日本大震災・原発事故は、直接被害を受けなかった私達にも、色々な所に色々な形で影響を与えた。あの日を境に意識や価値観も変わってしまったことも多い。

あれやこれや考えるうち、小さい頃を思い出した。ご飯は竈さんで炊き、風呂は五右衛門風呂。親に連れられ柴刈りに行った。背中いっぱい柴を背負わせてもらい得意になって帰ってきた。冬は火鉢、夏は団扇と川遊び。寝る時は蚊帳を吊って自然の風。食べ物ほとんど自給自足。「ととる」のあの世界。何にもなかったけれど、知恵はいっぱいあった様に思う。私の宝物。究極の節電生活。そして時代は流れ……

(昔トトの友達だった)

## daikoku 株式会社 大黒

本社：〒640-8525 和歌山県和歌山市手平 3-8-43

- 和歌山事業所 : 〒641-0012 和歌山市紀三井寺855-71
- 紀三井寺事業所 : 〒641-0014 和歌山市毛見 1111-1
- 大阪支店 : 〒550-0002 大阪市西区江戸堀 3-5-27
- 南大阪支店 : 〒594-0031 和泉市伏屋町2-16-11
- 紀南支店 : 〒646-0011 田辺市新庄町3778-2
- 神戸支店 : 〒650-0023 神戸市中央区栄町通5-2-6
- 奈良支店 : 〒630-8115 奈良市大宮町4-295-10 奈良朝日生命川口ビル 1F
- 関西空港営業所 : 〒590-0523 泉南市信達岡中919-1
- 新宮営業所 : 〒647-0052 新宮市橋本 2-5-61
- 東京麹町オフィス : 〒102-0083 東京都千代田区麹町3-5-2 BUREX 麹町301号
- 京都丸太町オフィス : 〒606-8395 京都市左京区丸太町通川端東入 東丸太町32-3 上田ビル 3F

DAIKOKU MEDICAL SUPPLY

保健・医療・福祉の分野で、  
 「生命を守る人の環境づくり」を通じて  
 地域の発展に貢献することが  
 私達の使命です。

**SEIKO MEDICAL**  
 医療の先へ。セイコーメディカル株式会社

本 社 〒640-8525 和歌山県和歌山市手平3-8-43 TEL. 073-435-2333 FAX. 073-435-2223	田辺営業所 〒646-0011 田辺市新庄町2744番地 TEL. 0739-25-4535 FAX. 0739-25-4578
大阪支店 〒550-0002 大阪市西区江戸堀3-5-27 TEL. 0725-31-3610 FAX. 0725-31-3619	新宮営業所 〒647-0072 新宮市橋本2-5-61 TEL. 0735-31-9130 FAX. 0735-31-9133
京都丸太町営業所 〒606-8395 京都市左京区丸太町通川端東入 東丸太町32-3 上田ビル3F TEL. 073-448-3767 FAX. 073-448-3761	奈良営業所 〒630-8115 奈良市大宮町4-295-10 奈良朝日生命川口ビル1F TEL. 0743-64-3607 FAX. 0743-64-4810